

2024年6月期 第3四半期 WEB 決算説明会（2024年5月14日開催）

およびアナリストミーティングの主な質疑応答

【売上高・利益（率）】

1. **3Qの売上総利益率33.8%は高利益率案件の貢献が大きいとの説明があったが、どのようなもので、どの程度の貢献度だったのか？特殊要因を除くとどの程度の実力値と考えればいいのか？営業利益率も15.5%と高水準だが実力値はどの程度か？**

A: ベースとしての利益率も改善してきているが、3Qの特殊要因として、
①μOLEDや半導体の新規高利益率案件など一時的な高利益率案件が3Qに寄与したこと
②グループ会社の表面分析装置の売上が利益率の高い地域に集中したこと、などにより利益率が大きく改善した。
こうした一時的な特殊要因の影響を除いた実力値は31.5%程度と考えている。

3Qは販管費の一部が4Qにスライドしたこともあり、1%前後販管費が低下し、営業利益率にはプラスに働いている。これを勘案すると、営業利益率の実力値は、12%前後と考えている。

2. **特殊要因を除いた売上総利益率の実力値31.5%は、2Qの30.8%から改善しているが、その要因を教えてください**

A: ①利益率が高い半導体・電子の売上高が着実に増えミックスが改善したことが1/3程度、
②バッテリー関連の売上が本格的に貢献・改善していること、半導体の新規工程受注の利益率が高めであることなどが2/3程度、貢献した結果、一時的な特殊要因を除いた上でも利益率は改善した。

3. **4Qの売上高・利益（率）の見込みは？なぜ通期業績予想の上方修正をしないのか？**

A: 4Qの売上高は3Qの売上高650億円並みを見込んでおり、通期の売上高は2,500億円を超えるのではないかとみている。
3Qに集中した高利益率案件が無くなること、一部販管費も3Qから4Qにシフトすることなどから、業績予想の修正は行わなかったが、受注高・売上高・営業利益の今期計画は達成する見込みである。

4. **来期の売上総利益率をどのように考えているか？**

A: 3Qは一時的な特殊要因もあり高水準の利益率となった。実力値は売上総利益率31.5%程度、営業利益率12%前後だったのではないかと考えているが、特殊要因があったとはいえ、売上総利益率33.8%と上場来最高水準となったことは大きな前進だと考えている。
来期計画については8月の決算開示時にご説明するが、中期経営計画の26年6月期の目標である売上総利益率35%達成に向け、来期は31.5%を上回っていくことになると思う。

5. **3Qの販管費は何が減少したのか？4Qの販管費もこの水準が続くのか？来期以降はどの程度の見込みか？**

A: 3Qは、販管費の一部が4Qにスライドしたこともあり、低い水準となっている。
4Qは3Qからのスライド分や研究開発費の増加により販管費が増加する。

来期以降の計画については、8月の決算開示時に説明する。

引き続き半導体電子中心に研究開発投資を継続することに加え、ベースアップ等の人件費の上昇もあり、今期よりも増える見込みだが、固定費コントロールも確りと行っていく方針。

6. 1Q に比べて 2Q・3Q の受注が 550 億円前後となっているが、4Q はどの程度を見込んでいるのか？ 来期の受注はどのように考えればいいのか？

A: 今期受注計画 2,500 億円は達成する見込みであり、4Q は少なくとも 600 億円を超える見込み。
来期もパワーデバイスやバッテリー関連、ロジック・メモリなど成長ドライバーを中心に更に受注を伸ばし、今期を上回ると見込んでいる。来期受注計画については、8月の決算開示時にご説明する。

7. 来期の受注・売上計画はどの程度を見込んでいるのか？

A: 来期計画については、8月の決算開示時にご説明するので、現時点での主観の整理としてお話しする。
今期の受注・売上は 2,500 億円を超える見込み。
成長ドライバー中心に今期受注は好調に推移しており、今期末の受注残高も高水準となる見込みであり、来期の売上高は今期を上回る水準になると考えている。
中期経営計画の最終年度 26 年 6 月期の売上高目標 3,000 億円に向けて、伸ばしていく。
足下は、パワーデバイス・バッテリー関連が牽引して計画通りに推移しており、来期からは半導体関連の投資も徐々に回復してくると考えており、26 年 6 月期の目標 3,000 億円に向けて、来期は直線的に伸びるほど強くはないものの、着実に伸ばしていけると考えている。

8. 3Q の半導体電子部品および FPD の受注高・売上高の用途別内訳、品目別の営業利益率の順位は？

A: ※別紙参照

【成長ドライバー】

9. パワーデバイスの足元の投資動向、来期以降の受注見込みについて教えてほしい。

A: 日本・中国ともに SiC 投資が活発化。
国内各社は、今期 1Q からまずは 6 インチの SiC 投資を開始したが、8 インチ化移行を検討しており、一部では量産投資が始まっている。国内パワーデバイスメーカーは、会社によって SiC8 インチ投資のスピード感に違いがあるが、パイロットラインを経て、本格投資は来期下期以降になると見込んでいる。
グリーンエネルギー化、EV 化による需要増に対応した SiC 投資の活発化、ウエハーサイズアップ、トレンチ構造化などに伴うビジネスチャンスが中長期的に拡大している。SiC の 8 インチの本格投資が来期の下期以降になる見込みであることもあり、来期受注は横ばい程度となる可能性があるが、26/6 期は 8 インチの SiC 投資がフルに貢献し、23/6 期比 1.5 倍程度に成長する見込み。

10. 各種電子デバイスの足元の投資動向、来期以降の受注見込みについて教えてほしい。

A: 各種電子デバイスでは、金額規模はまだそれほど大きくないが、パッケージングビジネスの投資が活発化してきている。
ウエハーレベルパッケージングでは最先端プロセスに対応したアッシング装置に強みがあり、今後はスパッタリング装置も拡販していく。今後はウエハーレベルに加えパネルレベルパッケージングも投資が本格化する見通しで、既に台湾・日本の主要メーカーにアッシング装置の実績があり、スパッタリング装置と共に拡販していく。パッケージングの 26/6 期は 23/6 期比 4.4 倍程度に成長する見込み。
各種電子デバイス全体でも 26/6 期は 23/6 期比 1.2 倍程度に成長する見込み。

11. 半導体の足元の投資動向、来期以降の受注見込みについて教えてください。

A: ① メモリ

メモリ投資は在庫調整局面から投資回復局面にシフトしていく。今期は HBM 関連投資が寄与した。DRAM 中心に来期にかけて投資が回復すると考えている。

② ロジック

先端ロジック投資も調整局面から投資回復局面にシフトしていく。特に MHM 工程で 3 社目の北米ロジックメーカーからの採用を獲得できたため、MHM 工程での成長が期待できる。また、MHM 工程以外の新たな工程参入の機会もいただいております、成長のばねにしていきたい。前期から新規に取引を開始した北米レガシーメーカーからも継続受注が見込まれ、ロジック分野の取引基盤が拡大してきている。

12. バッテリーの足元の投資動向、来期以降の受注見込みについて教えてください。

A: EV バッテリーの正極集電体のアルミ両面蒸着膜への第一次投資が 1Q に本格化した。第一次投資した装置が下期から順次稼働し始め、その稼働状況を確認した上で、各社とも次なる成長投資計画に取り組もうとしており、来期以降に更なる成長を見込んでいる。26/6 期は 23/6 期比 4.7 倍程度に成長する見込み。

13. パワーデバイスの受注は、方式別・地域別・装置別でどのようなウエイトだったのか？

A: 3Q 累計

・方式別 SiC 関連：8 割半ば、Si-MOSFET 関連投資：1 割半ば、IGBT 関連投資：数%

・地域別 中国：6 割、日本：4 割。

・装置別 イオン注入装置：5 割強、スパッタ装置：3 割半ば、Si-MOSFET 向け蒸着装置：1 割強

14. 中国での半導体関連のビジネスチャンスはどうなっているのか？また、米国による中国半導体輸出規制等の影響は？パワーデバイス等への影響は無いのか？

A: 中国の半導体関連は、当社はレガシーノードでの採用実績が少ないことから、他社のようなウエイトの受注にはならないが、徐々に伸ばしていきたい。中国の半導体関連は計画としてはそれほど大きな金額で織り込んではいないため、米国による規制の影響は限定的。

ビジネスが拡大しているパワーデバイスや各種電子デバイス、バッテリー関連は規制の対象外でビジネスへの影響はない。むしろ先端半導体投資に制約がある中、パワーデバイス等に対する投資により力が入ってきている感もあり、パワーデバイス等の投資は活発化している。

以上

別紙：品目別内訳割合・営業利益率順位

●受注高 品目別の内訳割合

受注高	24/6期 Q3
半導体電子（億円）	192
・メモリ	2割弱
・ロジック	約3割
・電子部品	1割強
・パワー半導体	3割強
・実装	1割弱
・その他	-
FPD（億円）	76
・LCD	6割強
・OLED	3割強
・バッテリー	-
・その他	一桁台半ば

●売上高 品目別の内訳割合

売上高	24/6期 Q3
半導体電子（億円）	251
・メモリ	1割強
・ロジック	2割半ば
・電子部品	2割強
・パワー半導体	3割強
・実装	1割弱
・その他	-
FPD（億円）	126
・LCD	4割半ば
・OLED	2割弱
・バッテリー	3割半ば
・その他	数%

●営業利益率順位 24/6期 Q3

順位	品目
1	半導体電子
2	一般産業
3	コンポーネント
4	その他
5	FPD
6	材料

全社平均利益率は
 2) 一般産業
 3) コンポーネントとの間